第１２号　2010 年 10 月 20 日発行
五ケ瀬川の畳堤を守る会

アラビアンナイトの「空飛ぶじゅうたん」のロマンを畳に乗せた私たちの会報「空飛ぶ畳　第１２号」を今回１年ぶりに発行いたします。長くご無沙汰しましたことをお詫び申し上げます。

さて、この１年間もさまざまな活動がなされ、幾度もメディアに取り上げられた当会でした。ちょうど１年前となる昨年９月２６日、延岡市消防本部の視聴覚室で、「市民防災フォーラム２００９」を開催しました。

それぞれ立場の違う、国・県・市・消防団・ボランティア・自主防災組織の代表者が一堂に会し、『そのとき連携は？』のテーマの下、パネルディスカッションを熱く展開して、意義深いひとときとなりました。（内容は後述記事をご覧ください。）

１年を振り返って
河川功労賞受賞で決意新たに

その後、当会の総会をホテルメリージュに移して開催、各種議案が決定・承認されました。引き続き開かれたフォーラムの反省会・懇親会は終始和やかで楽しく、笑いの中でお開きとなりました。

翌１０月の下旬には、上田耕市副会長が五ケ瀬川以外に現存する２カ所の畳堤のひとつ、岐阜県長良川の畳堤の視察に行ってきました。国交省木曽川上流河川事務所の職員から現地で説明を受け、構造に違いはあれ同じく畳で街を守った畳堤のある街が交流し「防災都市連携」を進めていきたい、という当会将来ビジョン実現の１歩を踏み出した１日となりました。

メディアでの紹介では、水防月間の広報活動の一環として、今年５月１５日（土）ＭＲＴテレビ県政番組「おしえて！みやざき」で、洪水から街を守った先人の知恵『畳堤』が広く県下に放映紹介されました。また、地元のケーブルメディアワイワイでも、当会の活動の様子が放映されております。

この１年でもっとも嬉しかったのは、河川文化の発展や水防活動、河川愛護活動に功績があったという理由で、今年３月３０日（火）「社団法人　日本河川協会　会長　虫明功臣氏」から河川功労賞の通知を受けたことです。表彰状の伝達式は、６月２日に国交省延岡河川国道事務所で行われ、横峯正二所長から記念品と表彰状が授与されました。私たち会員は、表彰に恥じないよう、より一層活動を充実していかなければならないと決意を新たにしたところです。

河川功労賞の伝達式

また、恒例となった８月４日の「橋の日」には、５００名の参加者と合流し、畳堤周辺の清掃と献花を行い河川に対する敬虔の念を表しました。

会員のみなさん、これからも畳堤をシンボルに、自分たちの街は自分たちで守るという意識で楽しく活動を続けていきましょう。

会長　木原　万里子

先人の知恵・畳堤を守り伝える活動が認められました！

河川功労賞受賞

「河川文化の発展に寄与した」として、当会は今年、社団法人日本河川協会から河川功労団体表彰を受けました。その伝達式が、６月２日に国土交通省延岡河川国道事務所で行われました。横峯正二所長より、当会の木原会長に表彰状と記念品が手渡されました。

式で会長は「畳堤には先人の知恵が詰まっています。表彰を機に、自分たちのまちは、自分たちで守るという意識を市民と再確認したい」と話しました。

当会は、平成１３年に発足しました。地域と行政の協働の取り組みとして国交省からも協力をいただきながら次のような活動を行ってきました。

畳堤の仕組み調査、その歴史などについて地元での聞き取り調査、それらをまとめた小冊子の発行、市民防災フォーラム開催、畳堤マップやＣＤの製作等による市民啓発、デザイン的にも優れた、良質の土木遺構であり、住民の知恵の結集としての畳堤を広く市民に知ってもらうとともに、地域防災の勉強の場とする活動と拠点作り等。

これらの活動を先代会長、現会長とつなぎながら、役員をはじめとして、会員の皆さまが市民や全国に発信しつつ、活動に尽力しています。その積み重ねにより、今回の団体受賞となりました。

みずから地域・まちを守る活動をしている当会に対する、歴代にわたっての国交省のご協力や市行政、自主防災関係部署との協働の結実でもあります。

（国交省木曽川上流河川事務所の職員２人とともに、長良川の畳堤の前で）

この２枚の写真は、昨年１０月下旬、上田副会長が視察した岐阜県長良川の畳堤です。畳堤は全国にこの長良川と、延岡市の五ケ瀬川、兵庫県龍野市揖保川の３カ所残っていますが、枠がおしゃれな扇形をしているのは延岡だけです。また、延岡の畳堤が１番古いことが分かっています。

橋の日イベントに参加しました

第２５回橋の日のイベントが８月４日早朝６時前から亀井橋であり、本会からは会員数名が参加しました。

雨上がりの西の空にかかる虹のアーチを見ながら、市民約５００人が川岸を掃除しました。

その後、市内の僧侶が１０人以上集まり、口蹄疫被害家畜鎮魂慰霊祭を行い、犠牲となった牛や豚などを追悼しました。

橋の日は、昭和６１年に延岡市の安賀多橋で開催されたのが最初と聞いています。今年は全国２７都道府県で開催されたそうです。来年はさらに増えることを願っています。

ワークショップで発表

「歴史に学ぶ川づくり・川普請」をテーマに、「ふるさとの川ワークショップ」（宮崎県県土整備部河川課主催）が、３月７日に延岡市牧町のリバーパル五ケ瀬川で開かれました。

福岡大学工学部の渡辺亮一准教授による講演「歴史的土木構造物と水生生物の関係」に先立って、川に関係する行政や地元団体の発表がありました。本会からは矢野事務局長が出席して「畳堤の歴史」について話しました。

本会のほかには、宮崎県河川課が「北川の霞堤（かすみてい）」、延岡北川町温故知新の会が「尺八樋の改修・復元」、北川流域ネットが「岩熊井堰の歴史」、国交省延岡河川国道事務所が「隔流堤の仕組み」について、それぞれ発表がありました。

畳堤がＭＲＴテレビで県内に紹介されました

４月３０日には、北町の畳堤で、ＭＲＴテレビから取材を受けました。（写真下）５人がインタビューを受け、木原会長は本会の活動について、岡田光直役員は北町の地域代表として、上杉会員は自主防災組織と畳堤の関係について、芝弘光副会長は地域住民と防災について、廣瀬武男役員が川中地区区長会会長として話しました。この様子は、５月１５日に県内一円に放送されました。

研修会＆総会のお知らせ！

防災フェスタ＆自然災害フォーラム

２０１０年１１月２３日（祝）１０：００～１７：００

会場　延岡市野口記念館

▼防災訓練展示等　１０：００～１７：００

１、はしご車と救急車の訓練展示

２、起震車による地震体験

３、各種防災団体、ボランティア組織等による
　パネル展示

▼延岡自然災害フォーラム　１３：００～１６：４５

テーマ「１７年の水害、１８年の竜巻災害を忘れない」

風工学会加盟の京都大学等の先生方による討論

主催　日本風工学会

共催　延岡市、五ケ瀬川の畳堤を守る会

★会員の皆様、とてもためになるフォーラムです。ぜひ参加しましょう。

★フォーラム前に、本会の平成２２年度総会を行います。

１１月２３日１１：００～　会場・市役所１階多目的室

総会が終わり次第、昼食

おいしいお弁当、お茶が無料で付きます。

そのあと、フォーラムに参加します。

★なお、当日、年会費２０００円を徴収しますので、ご用意ください。ご協力お願いいたします。

編集後記

ＷＯＲＤとの格闘の末、ようやく「空飛ぶ畳」第１２号を仕上げることができました。役員の皆様、何度も編集会議を開いていただき、ご面倒をお掛けしました。

ようやくコツがつかめたような気がします。第１３号は少し早く作れるでしょうか。頑張ります。

会員の皆様、川に関する話題がありましたら、お寄せください。（ぬ）

五ケ瀬川の畳堤を守る会
事務局　社会福祉法人光紀会ひかり工房内
矢野 光孝
〒８８２－００６３
宮崎県延岡市古川町７４番地１
ＴＥＬ　０９８２－３４－１３８９
ＦＡＸ　０９８２－２３－１６１７

防災情報の入手方法いろいろ

▼電話で聞く＝☎0982(31)3000。音声で情報が聞ける。

▼わいＷａｉテレビ情報チャンネルで、避難情報や、定点カメラによる川の様子の映像などを放送している。

▼インターネット（パソコンから）
・五ケ瀬川防災情報（国提供）
・雨量・河川水位観測情報（県提供）
・「延岡市役所」のホームページを開き、「いざというときのために市防災・災害情報」をチェック。

▼インターネット（携帯電話から）
・五ケ瀬川防災情報システム（国提供）
・宮崎県の雨量・河川水位観測情報

▼国、県、市がそれぞれ提供している災害情報メールサービスに登録しておく。

岩田浩之さん

防災を楽しく再認識

市民防災フォーラム

守る会は昨年９月２６日、「市民防災フォーラム２００９」を延岡市野地町の市消防本部で開きました。畳の製作実演などユニークなアトラクションが好評で、約１００人の参加がありました。

パネルディスカッションに先立ち、国交省、県延岡土木事務所、市防災推進室から、平成１７年の台風１４号災害後の取り組みについて説明がありました。五ケ瀬川や北川水系での防災事業の進捗状況とともに、国、県、市とも防災情報の周知に力を入れていることが分かりました。

パネルディスカッションのテーマは「そのとき、連携は」。パネラーは塚本剛好・延岡河川国道事務所副所長、高橋秀人・延岡土木事務所河川砂防課長、小村周司・市防災推進室長補佐、吉岡晃さん（市消防団員）、平川真悟さん（ボランティア代表）、上杉泰洋さん（当会会員、市防災推進員）。当会の上田副会長がコーディネーターを務めました。

いざという時、市民はどう行動すればいいのでしょうか。パネラーは①情報の入手に努めること。②食料を持参して、早めに避難すること。この２点を強調しました。

家の気密性が高くなっているため、風雨の中、広報車が回ってきても声が聞こえにくい状況です。広報に耳を澄ませる、災害情報メールなどを活用して、自ら情報を得ようとする努力が重要です。

畳の製作実演では、同市昭和町の岩田浩之さんが、框（かまち）縫い（畳表を縫いつける）、平縫い（へりを縫いつける）などを披露しました。

また、同市大貫町、第三木材勤務の俵達郎さんに作っていただいた畳堤の木製模型に、「五八間」（ごはちま）サイズの畳をはめ込むパフォーマンスが好評でした（写真上）。

この模型は、消防本部に展示してあります。皆さんぜひ見に行ってください。

◆国交省から◆

平成１７年の台風１４号では市内５カ所で堤防を越水、さらに内水被害が発生し、床上浸水１３１５戸、床下浸水３９９戸にも及ぶ甚大な災害に見舞われました。この被害を受け、同年度から「五ケ瀬川激甚災害対策特別緊急事業（通称：激特事業）」により、短期集中的に河川改修を実施しています。

激特事業では、河道掘削、築堤、排水ポンプ場整備等を行っており、平成２１年度末でほぼ工事が完了しています。今年度は、安賀多橋の架け替え工事を継続実施し、早期供用を目指しているところです。

また、災害を防ぐためには、河川改修等のハード整備だけでは限界があります。そこで国・県・市では、防災情報の提供やハザードマップの公表等、被害を軽減するためのソフト面での対策も行っています。（延岡河川国道事務所調査第一課・甲斐英明さん）